

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年3月7日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙、赤荻歩		
検証テーマ： オープニング、中国と韓国に入国制限 安倍総理が福島を訪問、トランプ大統領の首席補佐官人事 【特集】 東日本大震災から9年～放射性物質処理の現状		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング ・ 中国と韓国に入国制限 ・ 広島と群馬で初の感染確認 ・ 千葉県でスポーツクラブ以外の感染確認も ・ アメリカのクルーズ船で21人が陽性反応 ・ 新型コロナウイルスで国内各地に影響 ・ 静岡県議がネットにマスクを出品 ・ 労働組合が労働相談ホットラインを開設 ・ 安倍総理が福島を訪問 ・ トランプ大統領の首席補佐官人事 ・ 4歳虐待死事件で日常的な虐待の疑い ・ レストランで現金詐取の男を逮捕 ・ タイム誌が100年の女性の1人に緒方貞子さん ・ 【特集】 東日本大震災から9年～放射性物質処理の現状 ・ 【特集】 脱原発を目指す台湾 ・ スポーツ報道 		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング：結論→特に問題なし 番組の冒頭で金平キャスターが「福島県の双葉町に来ています。3日前に避難指示が一部で解除されました。あの原発事故からまもなく9年、古い駅舎の時計はあの子どものままです、いま世の中は新型コロナウイルスの感染拡大で人々の心に大きな不安と混乱が生じています、九年前のあの原発事故の直後とどこか似た状況をわたしとしては感じます。何を私たちはあの原発事故から学び取ったのか、後ほど中継を交えてこちらからお伝えします。」とコメントしていた。このシーンに当てられた時間は35秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 ・ 中国と韓国に入国制限：結論→特に問題なし スタジオでの赤荻キャスターの「新型コロナウイルス対策として、日本政府が発表した入国規制が9日から始まるのを前に対象となった韓国と中国からは急遽帰国する人が増えています。日本政府は9日午前0時から中国と韓国からの入国者に2週間の待機などを要請する他、ビザ免除の措置を停止します、一方、韓国は日本人に対するビザ免除制度の停止措置などを取ると発表しています。」とのコメントを受けて、いかに朱記したようなVTR 		

が取り上げられていた。

"今林隆史（報告）「最近は日本便の利用者はめっきり減少していますが、今日は搭乗手続きをする日本人の姿も見られます。」

韓国から福岡に帰る人「もともとはあと少しだけ泊まる予定なんですけど、なんかニュース見て心配になって今変える予定です。」

テロップ「北京では」

濱野祐司（報告）「中国から日本に帰る人の中には戸惑いの声を上げる人もいます。」

帰国する北京駐在の女性「昨日出勤して、明日日本に帰ってください、と会社に言われて今日空港に来ました。えーっていう気持ちしかないですね。」

北京に駐在していた男性「今、こういう状況なので急に発表されたらそれに従うしかないのかな、と。」

ナレ「新型コロナウイルスの感染者は中国本土では新たに確認された人が 100 人を切る一方、韓国での感染者は併せて 7000 人を超えました。一方、羽田空港では日本と韓国を結ぶ便の利用客は依然として少ない状態ですが、今日は予定を早めてソウル行きの便に乗るビジネスマンらの姿も見られました。また、ソウルから羽田に到着した便には。」

"ソウルから帰国した人「日本のニュースを受けて、ちょっと少しでも早く帰ってこようと思ひあして、一刻も早く母国に帰りたいなと思ひまして、安心の一言です。」

ソウルから来日した人「韓国のソウルから月曜日からそういうことになると、日曜日はどうなるかわからないので不安だったので一日でも早く来ようと思ひました。」

ナレ「明日、日曜日には駆け込みで日本に入国する人が増える可能性があり、一部の航空会社では期待を大きな物に変える予定です。」

このトピックに当てられた時間は 145 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・安倍総理が福島を訪問：結論→特に問題なし

安倍総理が福島を訪問したことについて以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

安倍総理「故郷への思い、熱意が大きな力になって、復興は着実に進んでいるな、こんな思いを強くしたところでございます。」

ナレ「東日本大震災発生から今月 11 日でまる 9 年となるのを前に、安倍総理は被災地の福島県を訪問しました。東京電力福島第一原発の事故に伴う避難指示が一部解除されたばかりの双葉町では 14 日に全線で運行が再開される JR 常磐線の状況について説明を受けました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で予定されていた地元住民との交流は取りやめになり式典などは規模を縮小して執り行われます。」

このトピックに当てられた時間は 46 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・トランプ大統領の首席補佐官人事：結論→特に問題なし

ナレーションによって「アメリカのトランプ大統領は保守強硬派のマーク・メドウズ下院議員を大統領首席補佐官に任命すると発表しました。トランプ氏は Twitter に私はマークを長く知っていて、一緒に仕事をしてきた、関係はとていい、などと投稿。大統領首席補佐官はホワイトハウスを統括する閣僚級のポストで、大統領選挙を見据えて体制がためを図る狙いがありそうです。」とのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 27 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】東日本大震災から9年～放射性物質処理の現状：

膳場キャスターの「再び宮城県気仙沼市です。東日本大震災の発生から9年。今日は全編を通じて原発・エネルギー、そして復興について考えます。まずは福島県の大葉町から金平さん。」というコメントに対し金平キャスターが「はい。来週の土曜日に常磐線が全面再開します。新築された JR 大葉駅です。なかなか現代的なデザインです。故郷に人々が戻ってほしいという願いが込められたもの。それとは対照的に、古い駅前商店街肉がそのままあります。9年間止まったままの自動販売機ですね。ここはたい焼き屋だったんですね。これね。その上の瓦黒い瓦は傷ついたまま無残な姿をさらしています。道路の向こう側には商店街があったんですけども、そこはもう解体されてしまって更地になっています。3日前に避難指示が解除されたとは言ってもですね、この駅前の周辺の一部と、それから産業団地ということで、その他の土地は、あー、その、昔のまま全く変わらない状態が続いています。さてそうした中で原発事故から生み出された、汚染水や汚染土など、がどのように適切に処理されているのかと、こうした視点から事故から九年目の現実を、取材しました。」と応えた後に以下に朱記したような特集のVTRが取り上げられていた。

金平「えー、福島第一原発の1号機と2号機のコントロールルームですけども、ほぼ9年前の事故があった直後、当時のままです。」

職員「当時地震が起きたので、地震が起きた時に操作員は、この手すりにおそらく捕まって・・・」

金平「これ、手すりの捕まった後みたいのが残ってますね」

職員「そうですね。地震の揺れをこれで耐えながら、操作盤を確認したと言うふうに聞いています」

ナレ「9年前、東京電力福島第一原発は、巨大津波によってすべての、電源が失われ、未曾有の事故を引き起こした。廃炉作業には困難が立ち上がる。」

金平「えー2号機と3号機の間通路に来ました。2号機のあの壁に沿って、燃料デブリを取り出すための部屋のようなものをこう、今、作るために今土台を作っているところですねこれね。」

ナレ「2号機と3号機の格納容器では、事故で溶け落ちた核燃料、デブリが確認された。このデブリの取り出しが最も難しい作業となる。来年初めて2号機から実施される予定だ。作業に必要な防護服には、今年ある問題の影響が出ている。」

職員「こういったものが実際に使えなくなる。あるいは足りなくなる時に備えて、まあこちらをの準備をするんですけども、」

ナレ「使用されている防護服は、ほとんどが中国製だ。新型コロナウイルスの感染拡大で、中国での製造と流通が滞っているため、今後足りなくなる可能性が出てきた。作業の一部は普段よりも軽装に切り替えるというが、」

金平「一般のでいいんですか？」

職員「これに準じたもので、通常の作業にも適したものであれば、作業に従事していただけるようにはなっていないんですけども、」

ナレ「デブリ取り出しに加え、もう一つ喫緊の課題がある。」

金平「汚染水のタンクがあるエリアに来ましたけれども、去年と大分変わりましたね。一番変わっているのはこの雨よけがこう出来てるという。」

ナレ「この9年間、福島第一原発では、壊れた原子炉建屋に、雨水や地下水が入り込むことにより、汚染水が発生し続けている。大半の放射性物質は取り除かれているものの、トリチウムは残る。」

金平「2020年中には、大体137万トンの、貯蔵タンクを用意できるということだったのですが、2022年にはそれも限界に達するというので、ここで貯蔵しておくのはもう限界だということ、ということになってるわけですが」

ナレ「タンクの限界まであと 2 年。国の専門家委員会は今年 1 月、トリチウムを含む水の処分方法について、初めて見解を示した。結論は大気か海への放出。その上で海洋放出の方が、影響を監視しやすく利点があるとしている。その対応が国際的にも注目される中、 私たちと同じ日、 IAEA 国際原子力機関のグロッシー事務局長が初めて視察に訪れた。防護服を着ることなく、視察することができるエリアを、スーツ姿で見て回ったグロッシー氏。海洋放出が実施された場合の安全管理をどう考えるのか。」

金平（字幕）「日本政府が海洋放出する場合には支持するということか？」

グロッシー事務局長（吹替）「水をどうするかは日本政府が決めることです。垂れ流しではなくコントロールして、非常に厳しい安全対策がなされます。その上でトリチウムが入っているかもしれない水が出るということです。」

ナレ「こう述べた上で、 IAEA もモニタリングなどで、協力していく姿勢を示した。」

金平「えー1号機から4号機までを見下ろせる高台にあります。この場所で毎時 120 シーベルト。東京電力からここではマスクなしで大丈夫と言われ、こうしてレポートしてますけれども何とも奇妙で複雑な想いです。と言いますのも、原発の敷地を外では人々はほとんどマスクをしていました。コロナウイルス対策です。そこから原発敷地内に入ってきて、マスクを外してリポートすることの意味はどれほどあるのでしょうか。もちろん放射線とウイルスとは全く性格が違いますが、目には見えないリスクであるという意味では共通しています。」

安全はどこでいつ誰がどのような基準で誰に対して決めるのか。この場所で強く考えさせられます。」

ナレ「放射性物質にまつわるもう一つの大きな課題。それは、いわゆる汚染土だ。原発事故に伴う除染作業で、各地に膨大な量が発生した。福島県内の各自治体からは、連日大型トラックで中間貯蔵施設へ運ばれている。福島第一原発から 30 km の、南相馬市から。その様子を見ていたのは、近くに住む渡部 チイ子さん。すでにかかなりの数の汚染土が運び出されたというが、それでもなお不安なことがある。」

渡部チイ子さん「せっかく除去したものをまた再生利用すると言い出すことは、本当に許されないっていうふうに思うんですね。」

ナレ「再生利用計画。それは集めた汚染土を全国の公共事業で再び使おうというものだ 1 キロ当たり最高で 8000 ベクレル。震災前の基準の 80 倍にあたる。膨大な汚染土の総量を減らすためだという。すでに花の栽培や盛土の実証試験が行われていて、環境省は安全性が確認されたとしている。」

小泉進次郎環境相「安全利用の推進は、地元の皆さんの理解がなかったら、実現できない。ていうふうに思っております。」

ナレ「環境省は再生利用を進めるため、来月 1 日の、省令の改正を目指している。事前に意見を公募したところ、およそ 2800 件の意見が寄せられた。反対意見も多いという。相馬市では実際に高速道路の盛土に汚染土を使う計画が浮上し、反対運動が起きた。渡部さんは去年 2 月、市に対し反対の署名を提出した。計画はその後進んでいない。」

渡部「被災地のここで受け入れてしまったら、安易に全国に広めていくことにつながるという思いが強かったと思いますね。」

ナレ「住民からはこんな声も上がったという。」

渡部「安全だったら東京に持って行けというのが、ね、電気も清算して東京に送ってなんでそんなに俺達だけがこの負の遺産みたいなもの請け負わなければなんねえだって言う気持ちだと思んですけども、やっぱりそういう意見も出てきましたよ。うん。」

ナレ「汚染土は福島県外にもある。」

金平「去年 10 月の台風 19 号で被害を受けた、宮城県丸森町。その直後から取材に僕も入ったんですけども、武山地区の汚染土の仮置き場です。あれから 4 ヶ月も経っているのに、こういうような状態です。池のような浸

水が続いていて、しかもその、全く手が付けられていないという。これが汚染土の適正な管理だとはですね、到底思えないような光景が、広がっています。」

ナレ「宮城県丸森町は、台風 19 号で町の中心部が水没。住宅や道路、堤防にも大きな被害が出た。豚を見つけたのは、汚染土の仮置き場のすぐ近く。そこは今入り口のフェンスは壊れたまま。誰でも出入りできる状態だ。汚染土は緑のシートの下にある。上にはポリタンクやバッグが流れついたままの状態だ。大きな流木も……。街は汚染土について、埋立処分を検討し始めたところだったが、災害の対応で中断している。」

丸森町保科郷雄町長「今福島県は処理が進んでいるのに、県外の丸森町の方が逆に遅くなってしまいうんじゃないかって、そっちの方が心配。なぜ私らも被災地なのに、丸森が進まないのって。」

ナレ「丸森町の筆甫地区には、象徴的な光景がある」

金平「びっくりしたんですけれども、ここはいわゆる除染土の仮置場ですね。」

ナレ「汚染土の、隣に並ぶのは、太陽光発電のパネル。震災をきっかけに町の有志で立ち上げたヒッポ電力のものだ。」

金平「これ気になりませんでしたか？隣接で建てるという意味で言うと……」

ひっぼ電力金上孝事業所長「いや、むしろここに太陽光発電所を作って、ひとつの地域のモニュメントにしたいとは、初めから考えていたことです。はい。」

金平「なるほど」

ひっぼ電力金上孝事業所長「こうやって、震災の時の思いと、震災の後の気持ちっていうが隣同士になっているということなので、この場所に来れば、いつでも当時の思いとこれからの気持ちが感じられるので。」

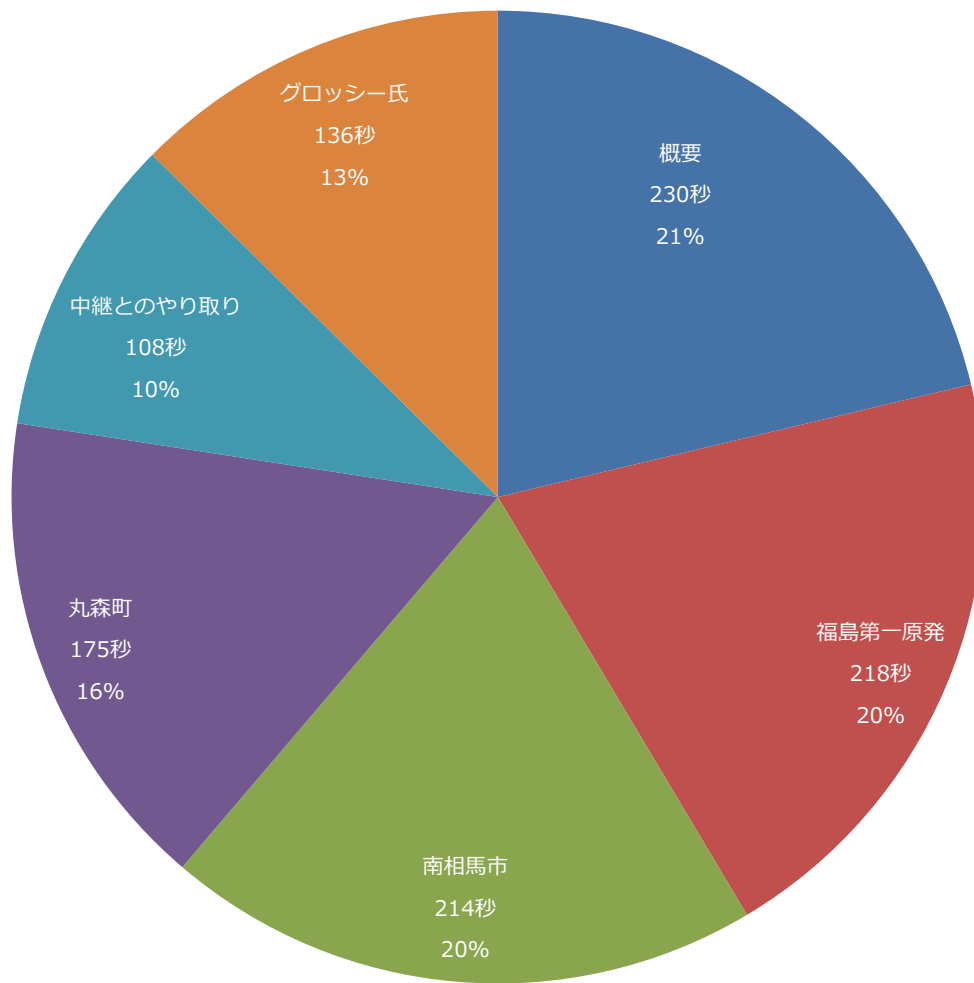
特集の VTR を受けて、中継との間で以下に朱記したようなやり取りが繰り返された。

金平「再び双葉町です。住民が帰還していないだけに、夕暮れとともに辺りが暗くなってきました。先ほどここに来てが来ました。報道特集がこだわってきて取材し続けてきた、原発事故の負の遺産の一つが、汚染土です。危険性を取り除く処置が、きちんとなさされているとは到底思えませんでした。汚染土の仮置き場にしても、台風の影響があって、それは放ったらかしにされてました。汚染土の再生利用の名の下で、環境を汚染土を戻していく作業については、環境省は既に始めているわけですが、無理やり感が残ります。」

膳場「あの金平さんがいる双葉町ですけども、帰還困難地域の避難指示が一部解除されるまでに、実に九年の歳月を要しているわけですよ。実際にその現場に立って見て何を感じますか？」

金平「あの一避難指示が解除されるまで、九年もの歳月を要したと考えるべきなのか、あるいは、それほどアノール福島第一原発の事故というのは、過酷なものであって、本当は十分な安全性が保たれた上で、故郷に帰還できる状態ではないのではないのかと、まあ、そういう疑問がですね消し去ることができない。現実があります。原発事故から 9 年経って双葉町では、故郷への帰還を望む人々か 1 割しかいません。にもかかわらず脱原発ではなくて、原発再稼働へと進む日本のありようというのは、どうなんでしょうか？ 原発事故が生み出した教訓を、しっかりと学びとっていく必要があるというのですね、この場所においてつくづく思いました。」

この特集に当てられた時間は 1081 秒で、概要の部分、東京電力の福島第一原発に焦点を当てた場面、南相馬市の様子を取り上げた場面、丸森町の様子を取り上げた場面、中継とのやり取り、IAEA のグロッシェ事務局長を取り上げた場面に大別され、時間の配分及び比率は以下の通りであった。



中継とのやり取りでは原発再稼働に懐疑的な金平キャスターの意見が色濃く反映されていたが、特集では原発以外の発電への取り組みも取り上げられており、放送法の観点では特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特に問題なし

検証者所感

・安倍総理が福島を訪問

今回は安倍総理が福島を訪問したことが取り上げられていたが、公明党や野党の政治家で福島訪問などの動きはあったのだろうか、気になるところである。仮に、他の政党でも福島訪問などの動きがあったのであれば、自民党の動きだけを伝えるのは放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」という点に照らして問題となる可能性が出てくるだろう。